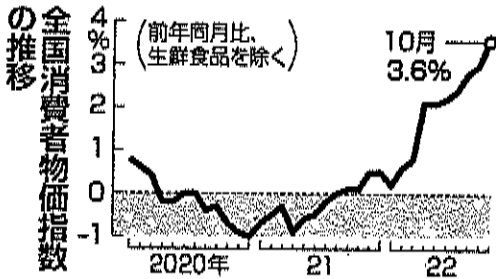


物価 3.6% 上昇 40年ぶり

10月食料品など値上げ続出

総務省が18日発表した10月の全国消費者物価指数(2020年=100)は、価格変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が103.4と、前年同月比3.6%上昇しました。食料品など生活必需品の値上げラッシュやエネルギー価格の高騰が響き、第2次石油危機後の1982年2月以来、40年8カ月ぶりの高い上昇率を記録しました。

資源・原材料価格の



高騰に田安が重なり、上昇は14カ月連続。食料品や光熱費など消費者に身近な分野で負担が増えています。

項目別では、生鮮食品を除く食料が5.9%上昇し、41年7カ月ぶりの上げ幅でした。

調査対象176品目のうち、上昇が154品目と9割近くを占め、10月の物価を大きく押し上げました。

原材料費や物流費の高騰で外食チェーンが相次いで値上げし、ハンバーガーや回転ずしが上昇しました。食パン、チョコレート、ポテトチップスなどの加工食品も幅広く値上が

りました。

エネルギーは15.2%の上昇で、値上がりが続く都市ガス代は26.8%の高い伸びとなりました。電気代も20.9%上昇と、前月より上げ幅は縮小したものの依然として高水準でした。

一方、先月始まった観光需要喚起策「全国旅行支援」の効果で、宿泊料は10.0%下落しました。

物価上昇の圧力となっている田安・ドル高

傾向は今月に入ってから。賃金も物価の伸びに追い付いておらず、為替動向が見通しにくい状況は変わりませ

ん。賃金も物価の伸びに追い付いておらず、家計に負担がのしかかります。